

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスあおぞら		
○保護者評価実施期間	令和7年1月22日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育プログラムに「調理実習」を取り入れている。	子どものレベルに合わせ、食材や道具の使い方を工夫している。食材の買い物や後片付けの実施で生活スキルの習得もねらっている。	調理室のある公共施設の利用のため学校休業日での実施になるので、事前予約をなるべく早くとり実施回数を増やしていきたい。
2	手指を使う制作、物づくりを多く取り入れている。	例えば「折り紙」であれば制作の手順書を分かりやすく準備している。一人一人に目が届くよう座席や制作時間など配慮している。	制作物に関しては素材はじめ多種多様な広がりがあるので、子ども達一人一人の課題も踏まえながら展開を進めていきたい。
3	金銭教育の実施。	「おやつ」を現金で買う。「あおぞらマート」と称しておやつ数種から選んで買う際に、子どものレベルに合わせて金種を用意している。買い物体験として店舗に出向いている。	おやつ の 値札 や 準備 する 金種 の より 一層 の 工夫 に より、金銭感覚の充実に寄与したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育場所が、個別対応できたり、中高生が動き回れる場所が少ない。	前半の小学生だけの時間はよいが、中高生が合流すると狭さを実感する。	学校休業日のように朝から全員来所する時は、講堂など広い場所がある施設を借りるようにしている。今後も散歩や公園利用など工夫しながら対応したい。
2	学校からの下校、送迎に時間がかかり、活動時間の確保が難しい。	事業所が市内中心部にあり、むつ養護学校が遠隔地にあるため、天候や交通事情の影響を受けやすい。	到着後の活動への取り組みをスムーズに始めるために、車内で活動プログラムなどの説明をしている。必要な時はホワイトボードなども持ち込み説明に活用している。
3	送迎が複数回往復になる日もあり、その時間帯は人材不足となり個別対応が難しくなる。	退職したスタッフの後任の補充がスムーズにいかず人手不足である。	スタッフが手薄になる時間帯の活動プログラムの内容や対応の仕方を工夫する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童デイサービスあおそら
------	--------------

公表日 令和7年3月15日

利用児童数 令和7年2月20日 14人

回収数 14

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	8	6			室内で体を動かす活動をするにはスペースが不十分を感じる。	長期休みなど活動時間が長い日には外遊びや公民館などの講堂の利用など工夫しています。
	2	11	2		1		
	3	12	2				
	4	12	1		1		
適切な 支援の 提供	5	14					
	6	14					
	7	14					
	8	11	2		1		
	9	13			1		
	10	13			1		
	11	8	2	2	2		
保護者 への 説明等	12	13			1		
	13	13	1				
	14	12	2				
	15	12	1		1		
	16	14					
	17	12	2			利用日時など困った時に柔軟に対応していただき感謝しております。	家庭支援の側面からも相談を受ければ今後共尽力してまいります。
	18	10	3		1		
	19	12	1		1		
	20	13	1				
	21	12	1	1		HPにブログのリンクボタンはあるが見れない。閲覧、更新のお知らせがあると良い。	HPのあおそらブログはリンクだけで正式に開設していないので混乱の無いよう対処いたします。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13	1				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	12	1				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	1	1		家にいる方が好きなことができるため行きたくないようです。	好きな活動プログラムの時は積極的に臨んでいるのでそのような場面が増えるよう工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	2			朝送迎に人数制限があるので待機組があるようなので解消してもらいたい。	その日の利用者に朝送迎のサービスを実施していますが、当事業所の自助努力では限界があり、今後の行政の動きに期待しております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスあおぞら				公表日	令和7年 3 月 15 日	
		チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
			○	○				
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			利用定員上はクリアしているが、実際の活動では不足なので、活動内容によっては公民館講堂などの利用をしている。	将来的には増築も視野に入れていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			一対一対応の場面が多いので、人員不足となることもあり、活動プログラムの内容や対応の工夫を工夫している。	職員の補充や力量の底上げ。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			○	ある程度の構造化に留まっているので、パーティションの活用などで工夫している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。			○	清潔や安全は保っているが、活動によっては手狭な空間になるので、低学年、高学年と分けて活動するなど工夫している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。			○	部屋数が少ないので、時には事務室やロッカールームを使用することもある。		
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			毎週のミーティングで振り返り等実施している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			評価表や面談時に意向を把握し改善に反映している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			毎週のミーティングや個別の対応で改善に活かしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○	外部評価を行うには至っていない。	どのようなやり方があるのか検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○					
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。			○	3月中に公表する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			保護者面談や相談事業所からの情報などから作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			療育会議を必ず実施し検討を重ねている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			○	標準化されたものを使用には至っていない。	使用のための検討を続ける。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			出勤時間の関係で全員が顔合わせできない事もあるが、表示などから確認しあっている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○					
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○					
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○					
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○					
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○					
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○						
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○						

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	一般参加の克雪ドームでのニュースポーツ体験会の機会はあったが、地域の子どもの交流は少なかつた。	回数を重ねて機会をつくっていくようにする。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	運営規定や利用負担の説明はしているが、支援プログラムの説明はまだしていない。	支援プログラムは3月に配布し、次回の面談にて説明する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	家族交流会は実施しており、保護者や兄弟が交流する機会は設定している。	保護者会などの組織化もいずれ念頭におきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	夏まつりやクリスマス会がコロナ禍で招待できずにいた。	感染、安全対策のもと検討していきたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	事業所として安全対応マニュアルを作成している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族に周知することとする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			